

回覧

清川歴史公園かわら版

5月17日 来所者20,000人を超えました!

二万人目は酒田市からお越しの渡辺さんと三丁目さん

平成三十一年四月二十七日(水)オープン以来の来所者が五月十七日(水)に二万人を突破しました。令和二年十一月七日に一万人を達成して以来、コロナ禍を乗り越えて今回達成しました。



渡辺会長より記念品贈呈

二万人目の来所者は、この日開催された「歴史講座in清川」に友人同志で参加された、

発行所

○清川歴史公園 管理運営委員会

□庄内町 立川総合支所 立川地域振興係 TEL:0234-56-2217

○庄内町 「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会

□庄内町教育委員会 社会教育課 TEL:0234-43-0183



来所二万人を迎えた際に開催した「歴史講座in清川」

渡辺直子さん、三丁目憲子さん(酒田市在住)でした。清川歴史公園管理運営委員会の渡辺会長から記念品として、清川の菓子セットや御殿茶屋の食事券が贈られました。渡辺さん、三丁目さんは以前から何度も訪れていた方々で「そばもとてもおいしいのでこれからも通います」と話されていました。

【春の大型連休】期間中 大勢の来所者で賑わう

四月二十九日(土)から五月七日(日)の大型連休の間中、清川関所には大勢のお客様にご来所いただき、賑わいました。



館内に飾りつけた五月人形(左)と鯉のぼり(下段)

館内に町内からお借りした「鯉のぼり」や「五月人形」を飾りつけ、兜をかぶる体験も行われました。大谷選手の影響か、兜はお子さんだけでなく大人にも大人気で、冠木門の前などで撮影される姿を多く見かけました。



また食事処「御殿茶屋」では、五月三日(水)から五日(金)まで「こどもの日サービス」として中学生以下のお子さんと一緒に食事をお召し上がりいただいたご家族全員に「そばせんさい」をプレゼントしました。

# 令和5年度 歴史講座 in 清川 開催 (5月17日・6月14日)

**歴史講座 in 清川**は、見て・聞いて・食べて、感じる「歴史の里・きよかわ」をコンセプトにして、昼食やまち歩きをセットにした歴史講座で、昨年から開催しています。今年度も館内の企画展示に合わせて、「最上川舟運と清川」をテーマに年三回(五月・六月・九月)に開催いたします。

## 【第一回】 五月十七日開催 『清川と源義経』

講師 御諸皇子神社  
宮司 正木 尚文氏

五月十七日(水)、第一回の**歴史講座 in 清川**は、「清川と源義経」と題して、地元・清川の御諸皇子神社の正木尚文宮司を講師に迎え開催しました。募集人員の20名を超えるお客様にお申込いただいた為、急遽席を追加設定して、県内各地の他、岩手県からもご参加いただきました。

奥州平泉へ逃れる際に、源義経一行が一夜を過ごしたと言われる御諸皇子神社。神社には一行が



御諸皇子神社 正木 尚文 宮司

奉納したと言われる青葉の笛や義経の祈願文等が伝わっています。正木宮司は、時に方言やユーモアを交えながら、分かりやすくお話しいただきました。また講演の後には、きよかわ観光ガイドの会による「まち歩き」が行われ、御諸皇子神社へ参加者を案内しました。

## 【第二回】 六月十四日開催 『最上川舟運について』

講師 大石田町立歴史民俗資料館  
学芸員 大谷 俊継氏

六月十四日(水)、大石田町立歴史民俗資料館の大谷俊継学芸員をお迎えして、第二回の講座は

「最上川舟運について」と題して講演していただきました。

出羽三山詣でに向かう人々が最上川を最上川舟運を使って移動しており、多い時には年間三万人を数えたことや、大石田町立歴史民俗資料館に寄託されている松尾芭蕉筆「五月雨歌仙」に見る、「五月雨をあつめて早し最上川」誕生の経緯など数々のエピソードを交えながら解説いただきました。

また受講者からは、大石田船と酒田船の役割分担や船乗りの収入に関する質問が出されました。



大石田町立歴史民俗資料館  
大谷 俊継氏

## 【第三回 参加者募集】 九月二十七日(水) 開催 テーマ 『出羽三山と松尾芭蕉』

講師 いでは文化記念館  
学芸員 富樫 あずさ氏

第三回歴史講座は九月二十七日(水)に開催。いでは文化記念館の学芸員・富樫あずさ氏に「出羽三山と松尾芭蕉」をテーマとして講演していただきます。

内容は次の通りです。

- ・参加費 2,000円
- ・昼食付
- ・受付 お昼十二時より

講座 食事後、午後一時から(午後二時半終了予定)  
・定員20名・お土産付

参加ご希望の方は、清川関所

【電話】0234・25・5

885へお電話にてご予約下さい。定員になり次第、受付終了します。(定休日:毎週

月曜日)

# 7月1日から9日まで「清川関所の七夕まつり」開催

清川関所では、今年も「清川関所の七夕まつり」を開催します。

## 【七夕飾り付け】

七月一日から七月九日まで認定こども園からふる(幼児舎)の子どもたちが作った七夕飾りを館内に設置します。



(掲載の画像は昨年のものです。)

## 【御殿茶屋・七夕御殿セット】

七月一日(土)、二日(日)、八日(土)

食事処御殿茶屋のスタッフが考案したメニュー「七夕御殿セット(1,300円)」を提供します。

営業時間は午前十一時から午後二時まで。只今事前予約を受付中。お申込は清川関所まで。



## 【OSOTO de Concert in 清川関所】

七月八日(土)

あまるめ少女少女合唱団による出張コンサート「OSOTO de Concert in 清川関所」を八日午後二時から清川関所で開催します。参加費は無料。(午後三時終了予定)

多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

問合せは清川関所【電話】0234・25・5885(定休日:毎週月曜日)まで。

## 歴史の里のおもてなし ガイドの会より

### 「立谷沢川」

現在、清川関所の館内では、江戸時代の舟運について展示されています。先日覗いて見たら、最上川の地図があり「立谷沢川」が「達谷沢川」と記されており、現在の字と違うのでビックリしました。その昔、室町時代に書かれた軍記物語「義経記」の中で、源義経が奥州平泉へ逃れる途中に立ち寄ったとされる清川で、見、感じられたと思われる記述に「清川と申すは、羽黒権現の御手洗なり。月山の禅定より北の腰に流れ落ちけり。熊野には岩田川、羽黒には清川とて流れ清き川なり。」この清川は現在の「立谷沢川」ですが、いつの時代から「立谷沢川」と言われる様になったのか?と調べていたところに、今度はまさかの「達谷沢川!!」歴史が深すぎ(笑)。だから歴史は面白いですね。

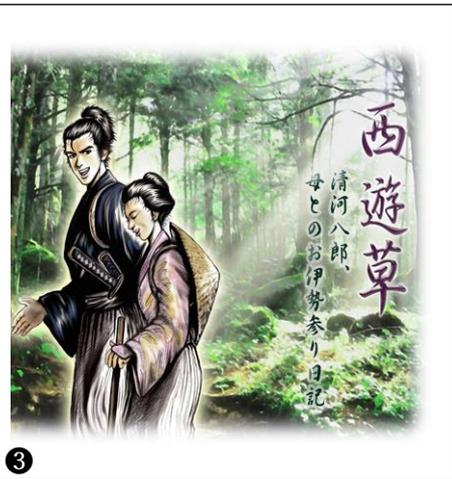
## 館内で【豆花】提供中

六月より清川関所の館内で台湾スイーツ「豆花(トウファ)」の提供販売を平日限定ではじめました。(ミニサイズ一杯350円)清川にあった美味しい豆腐屋さんの豆腐をイメージして考案しました。

ジャスミンティー(写真)やアイスコーヒー、抹茶とお得なセットもご用意しております。ご利用お待ちしております。



豆花(ミニサイズ)とジャスミンティーのセット(400円)



3

子供の頃はいたずらっ子でやんちゃ坊主、一度言い出したらあとには引かない頑固者。八郎は二度、父母に背いている。学問をしに江戸へ家出したこと、遊女・お蓮と結婚したことである。しかし「信念」と「誠実」な人だった。親に背いてでも学問という信念をつらぬき、身分の高低にとらわれず真の愛情を重んじる誠実さである。

2



1

八郎は好奇心が旺盛だった。北は蝦夷の松前、函館から南は九州一円を回っている。蝦夷ではロシアへの脅威に松前藩がどのような守りをしているのかを視察に行き、蝦夷地図を筆写している。外国への関心はとても強く、外国船とそれに備える砲台を見に神奈川の浦賀に行ったり、九州・長崎の出島に商人の格好で入り、オランダ商館を見学している。

5

維新の魁  
清河八郎を大河ドラマに！

「清河八郎」を主人公とする大河ドラマの実現を目指し、平成三〇年五月に「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会を設立しました。現在、清河八郎を多くの人に知ってもらいたい！という願いのもと、周知活動を行っています。



いったん議論を始めると相手を徹底的に追いつめる悪い癖があった。学問や議論においては決して妥協しない、という点で日本人的ではない潔癖さがあったのかもしれない。しかし、その真っ直ぐな人柄と行動力こそ八郎という人物であり、人望があったことは草野剛三の清河評の記すところである。

…「清河八郎グラフィティ」より

7

母をつれての伊勢参りの旅は八郎のやさしさと親孝行ぶりが如実にあらわれている。母の老後の楽しみにと書きつづった旅の記録『西遊草』は半年の間一日も休まず筆記した。またとんでもない記録癖で、自分の誕生の時までさかのぼって日記を書いたり、『潜中紀略』など、逃亡生活をしながら全国に志士を求めて旅していた時の記録は二部ずつある。

4

清河八郎が現代に生きていたら、まず文学にのめり込み、次に政治を学んでジャーナリストか学者になったことだろう。しかし、それにあきたらず、最終的には政治家になったかもしれない。

情熱家はおうおうにして激烈家でもある。八郎は短気でカッとなると止まらないところがある。

6

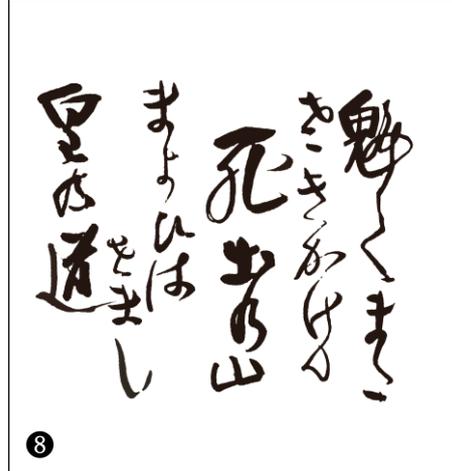
「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会  
Instagram はじめました★

@KIY08KYOGIKAI

同時代の「清河八郎」評

◆高橋泥舟(「泥舟遺稿」より)  
「私が初めて正明(清河八郎)に面し、その天性猛烈であって正義の念強く体格堂々、威風凛々、音声は鐘のようで、眼光人を射る。私は一見して凡人超越の俊傑であることを知る。」

9



8